

11102非鉄金属鋳物業における死傷災害100事例（-2017年）

No	年	月	発生時	死傷災害事例	年齢	事故の型	起因物(小)	労働者規模
1	2017	11	8～9	トラック2台で得意先へ納品に行く仕事で、最初に到着し、荷降ろしの順番待ちで待機していたところ、もう1台の車が、反対面の倉庫に行ってしまったので走って呼び止めようとしたところ、足を痛め、転倒した。その後歩けなくなり、病院で右アキレス腱部分断裂不全の診断を受けた。	69	7	211	10～29
2	2017	10	21～22	鋳造機内にある金型をクレーンで交換するために、金型を上につり上げた際金型が開き落下。その際金型をよけようとしたが、金型の一部が右ふとももにあたり裂傷した。発生原因：通常金型をつり上げる際はまっすぐの状態を引き上げる所を、ななめの状態で移動させたため、バランスを崩した金型が開いて落下してしまった。	21	4	211	100～299
3	2017	9	11～12	工場2F組立作業場にて、製品組立加工作業中に、作業で使用しているエキセンプレス機に右手中指をはさまれ裂傷、欠損したもの。	40	7	154	10～29
4	2017	8	8～9	工場内連続鋳造機Aラインにおいて、鋳造作業に着手した際、タンディッシュを通過した溶湯アルミが、鋳造内に流れた瞬間に飛散し、左目に入り火傷した。	59	4	529	10～29
				当社工場建屋内にある鋳造場にて、アルミ溶解の出湯作業を行っていたとき、溶解炉出湯口から鋳型へ注入する分配器までを繋ぐライン（樋）に右足を落とした。事故当時、樋をまたぐ				50

5	2017	8	4~5	渡り階段を利用したときに、開閉式の桶点検用の蓋が開いている状態でまたいでしまい、樋の縁に足を置いた際に滑ってしまった。結果、右足裏および甲から指先、足首の部分にかけてⅢ度の熱傷を負った（範囲2%）。	38	11	341	~ 99
6	2017	8	13~ 14	工場内のアルミダイカスト鑄造機の横で、鑄造済の製品を鉄カゴに入れた状態で点検・選別作業中に、床が油で汚れた状態であったため、振り向きざまに足が滑って鉄製のカゴに足を取られて転倒し、右足の甲を骨折した。	37	2	519	30 ~ 49
7	2017	8	15~ 16	砂でできた鑄型より製品を取り出しホイスト式クレーンで吊り移動させる際にフックのかける位置が悪く製品が足に直接落下し右足の甲を被災した。	60	4	372	10 ~ 29
8	2017	7	16~17	工場内で砂の混錬機の掃除中、羽根の方向を変えようと右手を混錬機の中においたまま左手でスイッチ（レバー）を入れたため右手指が羽根に巻き込まれ負傷した。	48	7	162	10 ~ 29
9	2017	7	7~8	作業場に於いて、グラインダーにてアルミ製品のバリを取り除こうとして、右手でグラインダーを持ち、グラインダーのスイッチを入れた際、グラインダーが跳ね、左手首に当たり左手首を負傷した。	22	19	153	10 ~ 29
10	2017	7	11~12	ダイカスト加工工場にてアルミ製品の切削加工中、工程が終了していると勘違いして製品交換のため、回転中の中に手を入れてしまい、右中指を切ってしまった。思い込みで作業をしてしまったことが原因。	19	8	153	50 ~ 99
11	2017	7	11~12	作業所で中子造型機械から中子を取り出すため左手で持ち上げた際に左肩に痛みが出た。	56	19	529	10 ~ 29
12	2017	6	18~ 19	金型整備作業において、組み込み部分のパーツを取り外す作業として、ハンマーの代わりに銅製の棒にて該当部を叩いていた際、右手小指を銅製の棒と金型の間に挟んだため、小指先端を	22	7	364	50 ~

				断裂し負傷したものである。				99
13	2017	6	9～10	<p>鑄造作業中、ダイカストマシンの下部ピットに落ちているスクラップを回収（ピット内清掃作業）している時、ピット内の足元に転がっていたスクラップ（20cm×20cm程度のもの）を踏んで、右足首を挫き、バランスを崩して転倒しそうになった為、咄嗟に左手で受け身をとった時、ピットの壁に左小指を打ちつけて受傷した。</p>	30	2	417	100～299
14	2017	6	8～9	<p>店舗北西側の出入口において、掃除機を使ってマットを清掃していた際に、電源コードを足に引っ掛けて転倒した。その際、床に左手を着き、手首にひびが入った。</p>	22	7	154	100～299
15	2017	6	8～9	<p>第3工場の中子成形機の金型交換中、金型位置を調整していたところ、誤って左手を金型とバーナー部の隙間に置いていた。隙間が狭くなってきたために広げようと、右手で制御盤の開け閉めのスイッチを操作した時に、誤って閉める側にスイッチを回してしまい、左手親指を挟み、骨折したものである。</p>	43	7	169	50～99
16	2017	5	16～17	<p>オートドライデシケーター（重量118kg）搬入の為、事務所書庫入口付近で搬入作業の後片付け・清掃作業を2名で行っていた際、共同作業者が屋内から運び出した引戸1枚を柱に立て掛けて、2枚を運び出している時に、立て掛けていた引戸が風に煽られて被災者の上に倒れ、第3腰椎横突起を骨折した。</p>	57	5	419	100～299
17	2017	4	3～4	<p>アルミの溶湯納品用ポット炉上（高さ約100cm）で、出荷前の溶湯仕上げ作業（ノ口取り）中、バランスを崩して足を踏み外し、溶湯内に左足が入って左膝から下を火傷した。</p>	48	11		10～29
18	2017	3	10～11	<p>発泡スチロール切断作業中、切断機（床から20cmの高さ）のへりに上がっていたところ右足を滑らせ、バランスを崩して転倒した。その際、頭が中央の少し高さのある木部に当たり、左胸が木の台に当たって被災した。</p>	21	2	169	30～49

19	2017	3	9~10	社内作業場にて、鑄造後のアルミ鑄物を電動鋸（帯鋸）にて切断中、誤って手を滑らせ鋸の刃に右示指を接触し挫創した（軍手着用）。	48	8	132	30 ～ 49
20	2017	3	11~12	工場内ダイカストマシンで鑄造作業中、自動給湯器の間に誤って入り、カスを除去したところ自動給湯器のアームが肩に引っかかり、給湯器のラドル（溶湯の柄杓）に接触し、右肩と右あごを火傷した。	25	11	169	100 ～ 299
21	2017	3	16~17	アルミ鑄物鑄造場で作業中、ヒシヤクを持って移動中、ヒシヤクの先が物にぶつかり残った湯がハネて左足の安全靴の中に入った。	44	11	364	10 ～ 29
22	2017	3	13~14	工場内倉庫前フォークリフト降車時、右足より着地した際に激痛がはしった。	56	19	416	50 ～ 99
23	2017	3	20~21	1.25t鑄造機の金型運搬作業中、金型を載せた台車を後ろ向きに引っ張りながら移動させようとしたところ、深さ1cmほどの床面のくぼみに台車の車輪が落ち、バランスを崩して後ろ向きに転倒した。その際、倒れた台車の持ち手部分が左足の甲にあたり負傷した。安全靴をはいていたが、保護されていない部位だった。	32	2	417	50 ～ 99
24	2017	2	19~20	当事務所工場に於いて、派遣労働者が加工した製品が入ったかごを積み上げようとしたところ、持ち上げていたかごが2段目のかごにつかえてしまい、バランスを崩して転倒した時に右手を強打し、負傷したものである。	28	2	611	50 ～ 99
25	2017	2	14~15	組立課工場内にてガス栓ねじ込み操作盤装置で製品に部品をねじ込む作業中、製品に指を置いたままの状態ですイッチを押してしまい、製品とシリンダーの間に指先が挟まり左手人差し指を負傷した。	35	7	169	30 ～ 49
				650tダイカストマシンのラドルにコーティング剤を塗る為に				

26	2017	2	8~9	ラドルを取り外し、コーティング剤を塗って取付け作業をしていた際に、誤ってラドルを溶解炉に落下させてしまった。まだコーティング剤が乾ききっていなかった為にその中に含まれていた水分により、溶解したアルミが飛散し火傷をしてしまった。	35	4	519	30 ~ 49
27	2017	2	15~16	ブローマシンで木型に砂を込める作業で木型に砂の入りが悪かった為、ブローマシンの砂の残量が不足していないか砂入れのシャッターを開け残量を確認した。残量が十分にあった為シャッターを閉めるスイッチを入れ砂排出口の掃除を手でしようとしたところ間違えてシャッターを閉めるスイッチではなく木型をブローマシンにセットさせる稼働スイッチを入れてしまい木型が上昇し砂排出口との間に腕を挟んでしまった。	45	7	169	50 ~ 99
28	2017	1	14~15	本社工場内において、テーブルショットで製品の仕上げ加工中、研磨剤の供給口開閉弁の鉄クズを取っていたところ、機械のタイマーが終了して停止したため、供給口開閉弁が閉じ、その弁に左手薬指が挟まれ負傷した。	30	7	153	100 ~ 299
29	2017	1	14~15	800t鑄造機の保持炉において、材料の交換の為、鉄坩堝の交換作業中に、鉄坩堝内での溶解途中でアルミ溶湯が一部飛び散ってしまい、保持炉そばで清掃を行っていた作業者にアルミ溶湯が付着してしまい、火傷を負ってしまった。	31	11	341	50 ~ 99
30	2017	1	11~12	工場内で鑄込作業中、アルミ溶湯が床のエアースーツに落ちた事が気になり、鑄造型自動操作の非常停止をせずに、シリンダー部とベースのすき間から手を入れアルミカスを取ろうとして、右手を挟み負傷した。	51	7	164	10 ~ 29
31	2016	12	17~18	工場において、亜鉛鑄造機の金型接合部に不具合があったので、同僚と金型の調整作業をしている時に、確認を怠り、金型が完全にセットできていない状態で同僚が作動スイッチを押した為、溶解した材料が金型の隙間から飛び散り負傷した。	44	4	521	50 ~ 99

32	2016	12	14～ 15	機械工場で鉄製円形の品物を移動する時、台車が空いていなかった為、手で転がして移動していた。その時に手が滑り、バランスが崩れて鉄製品が左足ふくらはぎ辺りに倒れ打撲し、左足小指を骨折した。	63	5	521	30 ～ 49
33	2016	12	14～ 15	加工作業場の縦型旋盤で、加工品がチャックから外れ、左足の甲部に当たり受傷した。	66	4	151	300 ～ 499
34	2016	12	8～9	工場において、材料を凝固させるための回転ミキサーを止めて掃除をしていた際に、羽に手を入れて清掃をしていたところ、誤ってスイッチを押してしまい、羽に指を挟まれた。その際に、右手中指を骨折し、右手人差し指に裂傷を負った。	27	7	169	1～ 9
35	2016	12	8～9	アルミ製品を切断する際、右手親指の根元にのこ刃があたり切れた。	33	7	159	10 ～ 29
36	2016	11	16～ 17	重油バーナーに油を送るオイルポンプのベルトがゆるんで空回りしていたので、手で押したら回転して手袋ごと小さい方のプーリとベルトに挟まれて指を負傷した。	42	7	121	1～ 9
37	2016	10	8～9	グループ会社の製品の部品の荷物を取りに行き、前に車が置いてあるので道路を渡る際、下り坂でカーブになっており白線付近に立っていたら、自転車が7台下り坂を時速30kg程度で走ってきて、前から3台目の自転車が突然ぶつかってきた。ぶつかった衝撃で倒れて頭をコンクリートの地面にぶつけた。	64	17	239	50 ～ 99
38	2016	10	14～ 15	構内の安全パトロール終了後、工場の外、1階部分でヘルメット未装着でフォークリフトに乗り作業をしている人がいたので近くに行き注意をしていた所、突然フォークリフトが動き、左足をタイヤで踏まれた。	38	7	221	100 ～ 299
				輸入している製品の輸入梱包の解体作業を実施していた。				

39	2016	9	11～ 12	チェーンソーを利用し、廃棄しやすい大きさに切断し、切断片を4段程度に重ねた塊にし、1個にまとめる作業中、切断片を乗り越えたが、その際に木材より突き出ていた釘に気付かずに受傷した。	48	9	521	100 ～ 299
40	2016	9	16～ 17	製品の運搬の為、荷物専用エレベーターに台車と共に乗り1階から2階に行こうとした。エレベーターに乗り込み昇降ボタンを押して2階へ上がって行く際、本人の不注意によりエレベーター側の扉が開いたままで上昇し、かつ台車の前輪がエレベーター側の扉の溝にはまっており、上昇途中に台車とエレベーター建屋の壁面と接触し台車が隙間に挟まった。あわてて台車を引き抜こうと接触部分の台車の取っ手を握って引っ張ったところ、接触部分に左指が挟まれ骨折した。	74	7	214	1～ 9
41	2016	8	4～5	下り車線に於て2tトラックで走行中、事故渋滞中の最後尾のトラックに気づかず追突し、受傷した。	61	17	231	50 ～ 99
42	2016	8	2～3	離型剤圧送タンクに補充する際、減圧コックを開き内部空気を抜きフタを開く際に、コックを開かずにフタを開いた為、内圧でフタが飛ばされ顔面を直撃して負傷。	28	4	312	100 ～ 299
43	2016	7	15～ 16	鑄造作業中、急に腰が痛くなった。	37	19	921	10 ～ 29
44	2016	7	9～ 10	工場内に於いて、ショットブラストマシンで作業中、ダイカスト品のセンターケースのショットブラストが完了したのでポリ箱に素材22個を入れ、手で持ち上げてパレットに置こうとした時、急に腰に強い痛みを感じ負傷した。	51	19	611	50 ～ 99
45	2016	7	14～ 15	事業所工場入口付近に於いて熱中症により倒れているところを発見された。	39	11	715	50 ～ 99

46	2016	7	10～ 11	機械工場で丸棒のつり上げ作業中に、誤って丸棒と丸棒の間に左手の小指を挟んだ。	62	7	211	30 ～ 49
47	2016	6	12～ 13	型込場で溶けたステンレスを鋳型に入れる時に溶湯が安全靴の中に入ってヤケドした。	33	11	519	10 ～ 29
48	2016	6	10～ 11	鋳造の造型作業中に、造型の型をかぶせる時に、右手首をひねってしまい、負傷した。	49	19	521	1～ 9
49	2016	6	8～9	加工現場で加工機内の切粉を掃除中に、加工機の主軸に右腕がぶつかり負傷した。	42	8	169	30 ～ 49
50	2016	5	8～9	ダイガスト製品の加工面に発生している傷の修正作業中、右隣の最終検査員から修正内容についてアドバイスを受けるために横に移動した。説明を受けた後、自分の作業台に戻る際に、作業台下のエアースーツに左足を絡ませた。エアースーツを絡めた事に気が付かないまま自分の検査台に戻り作業を再開した。その後、修正が終了した製品を定位置へ戻すために、左に移動しようとした時に、絡まったエアースーツで足がもつれ、製品を持ったまま転倒し被災した。	55	2	417	300 ～ 499
51	2016	4	12～ 13	工場壁の雨どいに、屋根から雨水といっしょに流れてきた枯葉が詰まってしまい、雨水があふれて下に流れ落ちていたので壁に梯子を立て掛けて、2m程登った所で、詰まっている枯葉を取り除こうとした。雨が降っていたこと、又、下で支えている補助者も付けなかった事から、梯子が滑って外れてしまい、梯子といっしょに落ちた状態になり、左足の骨を骨折した。	36	1	371	30 ～ 49
			13～	合金鋳造工場の鋳込場で鋳型に塗型を塗るために、作業用踏み台を使用して作業していた。左手には塗型が入った柄杓、右手には刷毛を持ち両手が塞がった状態であったが、鋳型の塗布作				100

52	2016	3	14	業を終えてから降りている時にバランスを崩して倒れ掛け、後方に置いていた金枠の取手部分に右足を強打、さらに体勢を崩し床に落下した。	48	1	371	～ 299
53	2016	3	10～ 11	鑄造職場で金型交換中、金型を鑄金機に乗せて金型交換台車が不要になり作業エリア外に移動した。台車移動後、金型セットの作業に入ろうとしたところ、上部台車部分が落下した。反動で上部台車が左ふくらはぎにぶつかり負傷した。	37	4	362	30 ～ 49
54	2016	3	14～ 15	派遣先にて、鉛板をハンマーを使ってパネルに貼り付け作業をしていたところ、あやまって手を滑らせ左手示指を打ち付け負傷した。	33	19	364	50 ～ 99
55	2016	3	11～ 12	工場内溶接場にて、溶接作業の段取り中に、鑄造品を手で転がしながら移動していたところ、鑄造品が倒れ、鑄造品と床の間に指がはさまり負傷した。	60	7	521	10 ～ 29
56	2016	3	1～2	溶解作業場で、高力黄銅の溶解作業中に、アルミニウム塊を装入したところ、湿気で溶湯が跳ね左手を火傷した。	25	4	521	500 ～ 999
57	2016	2	15～ 16	装置センター工場にて、エアーツールに筒型ブラシを取付けて、スラスト部品の錆落としを行っていた。途中、左腕に痛みを感じて保護具を外し確認したが、外傷を確認できなかったため、引き続き作業を行っていたが、その後、別作業にて、部品を持ち上げたところ、左腕後前腕部に痛みを感じた。病院にて、レントゲンを撮影したところ、異物が刺さっていた。	38	8	521	300 ～ 499
58	2016	2	11～ 12	工場において、ひしゃくに入った溶けたアルミを、運んで砂型に流し入れる作業中、誤って床に躓き、身体がよろけて顔面が砂型に当たり、流れ出たアルミに顔面が触れて負傷した。	57	11	521	1～ 9
			11～	工場内作業場にて、給湯機ラドルの改装テストを実施する際、給湯機の位置の変更が必要になった。ボルトを緩める際、収納				100

59	2016	2	12	状態の足場に乗し、不安定な状態で6角レンチに力を入れた。その際に足が滑り、転倒を防ごうとして、横にあった配管につかまった。その際、右肩に負荷がかかり、肩を痛めた。	48	19	921	～ 299
60	2016	1	16～ 17	工場で鋳造作業中、溶解炉で溶解したアルミ材をヒシヤクで汲み上げて移動するときに、機械の一部にヒシヤクが当たり、そのはずみで溶解したアルミが腰から背中に飛び散って火傷し、負傷した。	30	11	521	30 ～ 49
61	2016	1	16～ 17	鋳造作業場において、炉からアルミニウム溶解を鉄製のヒシヤクを使用して鋳型に流し込み作業中（湯入れ）、足元に置いてあった別のヒシヤクのバケツ部に躓き、両手で持っていたヒシヤクが大きく揺れた為、アルミニウム溶解を溢してしまい、跳ねたアルミが耳・首・左足にあたり、火傷した。	25	11	341	10 ～ 29
62	2015	12	15～ 16	事務所裏外のゴミ焼却場にて、不用物の整理と焼却を焼却用の窯で行っていた。風向きが変わり、手前4m程離れて仮置きをしていた発泡スチロール製鋳型等に引火し、処置に動いていたところ、着衣首部分に火があたり、首の部分を火傷した。	57	16	391	10 ～ 29
63	2015	12	14～ 15	鋳込みの後、切断の途中カッターの一部がかけ、それが顔にあたり負傷した。	71	4	159	1～ 9
64	2015	11	18～ 19	置場入り口付近で軸受素材の上に乗っているパレットを取ろうとしていたとき、2段に積んだ素材がパレットを手前に引き降す際に軸受素材がパレットの底面に引っ掛った。約50cmの高さより軸受素材が右足の安全靴上に落下し、母趾及び第二趾を骨折した。	50	4	379	30 ～ 49
65	2015	11	15～ 16	休憩となったため機械を離れようと高さ15cm程の作業台を右足から降りたところ敷いてあったマットが動きその反動で左足首、甲部に力がかかり転倒した。	23	2	417	100 ～ 299
66	2015	11	9～	プラスチック製廃箱を始末する為に電動ノコギリで細分化する作業を行っていた際手元を狂わせ反動により自己の右足太もも	33	8	169	1～

			10	の内側に当り負傷。				9
67	2015	11	10～ 11	工場屋外の空箱置場にて、置いてある台車の横を通り抜けようとしたところ、台車の連結器が飛び出ているのに気づかず、足をひっかけ転倒し、打撲・骨折した。	54	2	362	300 ～ 499
68	2015	10	13～ 14	工場内のペンキ塗布作業で、ハシゴを使用し解砕BOX上に上ろうとペンキを片手で持ちながら約25m登った所で、ハシゴの接地床面が滑りやすい状態だったのと、ハシゴが必要以上に斜めになっていた為、ハシゴが後方へ滑り床面へ落下した。	33	1	371	30 ～ 49
69	2015	9	9～ 10	機械（マシニングセンター）を使用し、オートバイスタンドの加工、指で押えながら製品を加工治具にセットしトルグレンチで位置を決め製品から手を離し油圧クランプレバーを右手で操作をする際、製品を加工治具にセットをし製品の端に左手を添え、油圧クランプレバーを操作していたが添い手の位置が普段より少し中に置いていることに気付かず、右手で油圧レバーの操作をしてしまい、押し金と製品の間で左親指を挟み負傷する。	49	7	159	1～ 9
70	2015	8	7～8	始業ミーティング終了後、フォークリフトを使用し溶解炉床上で原料の運搬作業を開始した。5分後運搬作業を終了したのでフォークリフトを停止し降車しようとした際にステップに足をひっかけ転倒し左の肘を強打した。	28	2	222	10 ～ 29
71	2015	8	15～ 16	ダイカストマシン（250t）の可動型の押し出し不具合の調整中、可動型の調子を左手で触りながら右手で操作盤を操作していたところ、突然押し出し機構が動き、左手薬指先が挟まれた。	44	7	169	1～ 9
72	2015	7	11～ 12	鑄造工場の砂型搬送用のラインからコンベア上へ砂型を払い出すシリンダーを使った装置の駆動途中に、異物が挟まり停止した。異物除去の作業を、駆動部付近に手を差し入れて行ってい	44	7	169	1～ 9

80	2015	4	9～ 10	普通施盤に品物を取付、かみヤスリで品物の表面をみがく作業をしていた時、軍手右そでが巻き込まれ、負傷した。	26	7	151	10 ～ 29
81	2015	4	13～ 14	ボール盤の面取用ドリルを使い製品の面取り作業を行っていたところ、セットした製品が回転してしまった為、あわててその回転を止めようとした際、左手人差指がドリルの刃に触れてしまい、指を負傷した。	49	8	152	10 ～ 29
82	2015	4	17～ 18	材料汲み上げ時、流し替えのインゴットケースに材料を入れる為振り返った時に桶が傾いてアルミが零れ、足にかかったため、右足甲側面に火傷を負った。	19	11	341	30 ～ 49
83	2015	3	13～ 14	作業に必要な10kg程の材料を台車に載せ運搬をする作業をしており、痛みを押えるためシップを貼って応急処置をしていたが、痛みが増し、シップでは痛みが治まらなくなった。	56	19	521	10 ～ 29
84	2015	2	11～ 12	ジャケット・ウエイト移載装置設備にて、リフトアーム開閉部のエアシリンダーセンサー調整終了後確認作業を行っていた。その際、被災者からリフトアーム部「あけ」の指示を同僚が「あげ」と認識し、移載装置リフト部分上昇電磁弁スイッチを押した。被災者がリフトアーム開閉部エアシリンダーランプの点灯確認をしようと、中に身体を入れたタイミングで移載装置リフト部が上昇した為、移載装置リフト部の梁と移載装置上部梁との間に胸部辺りを挟まれた。	26	7	169	30 ～ 49
85	2015	2	16～ 17	2トンハンマーでの金型段取り替えにて、ホルダ型へ入れ子型（O400約150kg）を嵌め込む作業をしていた時、入れ子型が傾いてホルダ型に収まらない状態となった。一端、入れ子型をホルダ型から取り出そうと右手を型の上、左手を型の側面（キー溝部）に持ち入れ子型を動かそうとしたところ、入れ子型がホルダ型に嵌まり込んだ。勢いよく入れ子型が嵌まり込んだ為、側面部（キー溝部）に添えた左手先端がホルダ型と入れ子型の	38	7	155	100 ～ 299

				間に嵌まり指を負傷した。				
86	2015	2	10～ 11	休憩時間に、一斗缶に薪を入れて一人で一斗缶を背にして暖を取っていた。その時あまり一斗缶に近付きすぎた為ズボンに火がつき、右足を火傷した。	72	11	715	30 ～ 49
87	2015	2	15～ 16	事業場内の砂型中子造型場において、木型に砂が入った砂型を移動する際、吊り具等を用いずに、中腰ではなく直立の姿勢で両足による屈伸を使わずに両腕のみで真上方向に持ち上げたため、腰に痛みが生じた。	22	19	523	10 ～ 29
88	2015	1	10～ 11	製品置き場にて、2段重ねで置いてあったパレティーナの下段より製品を取り出そうと下段のパレティーナの側面の蓋を開けるため蓋の上側のフックを外そうとした時、上段のパレティーナが背中に落下し、被災した。	26	5	611	100 ～ 299
89	2015	1	11～ 12	工場にて、砂型の脱型作業をしていた際に、砂の塊を踏んでしまい、右足をひねった。	61	3	523	—
90	2015	1	10～ 11	金属プレートへ穴開けねじ切りをマシニングセンターを使用し作業を行っていた。穴あけ後、ねじ切り加工を行う際の切削条件を誤ってプログラム加工を行った為、刃具が被加工物に衝突粉砕し、飛び散った破片が右眼球に当たり負傷した。	32	4	152	100 ～ 299
91	2014	12	15～ 16	出荷作業場でアルミ中空製品の圧力洩れ検査の為、検査機に製品をセットし起動させたところ、中間位置クランプの動きが悪かった為、設備を自動から手動に切り替え、左手を製品の左端に添えて、右手で中間位置クランプの作動スイッチを操作したつもりが、誤って左端クランプのスイッチを入れてしまったため、左手小指先端を製品とクランプ部に挟まれ、切断した。	58	7	169	10 ～ 29
92	2014	12	15～ 16	アルミ製品の溶接作業中、溶けたアルミが流れ落ち、左足内側に付着して火傷を負った。	42	11	339	1～ 9
				加工機マシニングセンターの機械修理中に、機械のカバーのネ				

93	2014	11	10～ 11	ジが機械下に落下し、拾おうと機械下の切削油が入っているコンベアのある所に右手を入れたところ、機械は止まっていたが、コンベアは回っていて、右手人差し指が巻き込まれて、台に関節から切断された。	48	8	159	～ 29
94	2014	10	11～ 12	金型作業場で製品（オイルバン）の歪取り作業時、ハンマーで左手親指を強打し骨折負傷した。	27	6	364	30 ～ 49
95	2014	10	11～ 12	工場内にて鑄造製作中、クレーンで吊り上げ型枠と砂型を外していた時ワイヤーが外れ、外れたワイヤーがはね回り、危ないと思いきやがんだところ床に設置してあった食枠（750×650）の角に尾骨を打ち打撲し負傷。	55	4	211	10 ～ 29
96	2014	10	13～ 14	当社工場にて、750度のアルミ溶解炉より湯をくみ上げる際、溶湯の中にトリベを入れたところ、湯が飛び散り、右臀部に湯がかかり火傷、右靴にも湯が入り足底部も火傷した。溶湯の中に入れたトリベが水分を含んでいたため水蒸気爆発が起こったと思われる。	60	11	521	1～ 9
97	2014	8	3～4	当事業所の新工場800t5号機用検査作業台付近にて、検査ゲージを保管場所に収納する作業時に検査ゲージの重みで手が滑りにダリ手薬指が床と検査ゲージの間に挟まり挫創及び開放骨折した。	21	7	521	50 ～ 99
98	2014	8	17～ 18	アルミ鑄物切断機を使用し製品の切断作業中、切断直後製品が滑り、切断用金鋸に接触してしまい、人差し指第一関節より親指の付け根部にかけて切傷した。	38	8	159	10 ～ 29
99	2014	7	15～ 16	グラインダーで部品の研磨作業中、砥石が真っ二つに割れ、その一つが顔に飛んできて左目を負傷した。	47	4	153	1～ 9
100	2014	7	12～ 13	工場外の畑の中にある簡易トイレに行く途中、ぬかるみに足を滑らせ転倒、右顔面を負傷し、右肋骨にヒビが入った。	51	2	417	1～ 9

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.html(職場のあんぜんサイト)

参考：[労働災害の分類の概要](#)

[各小業種における死傷災害100事例 \(-2017年\)](#)に戻る。